鉄鋼新聞
2019年11月28日掲載

田中石灰工業 125周年

田中 克也社長に聞く

高炉メーカーに副原料安定供給

環境事業など多角化で生き残り

ドロマイトなど鉄鋼向け副資材の販売や環境関連事業を手掛ける田中石灰工業（本社・高知県南国市、社長・田中克也氏）がきょう28日、創業125周年を迎える。石灰製品の製造事業からスタートした同社は100年を超える歴史の中で、時代のニーズに合わせて事業の多角化を展開、明治、大正、昭和、平成の時代を生き抜いてきた。125周年の意義、今後の事業展開などを田中克也社長に聞いた。（高田 潤）

――125周年をどう受け止めていますか。

「25年前の1994年に100周年を迎えた時は、鉄鋼向けの蛇紋岩が事業の最大の柱だった。その後は、蛇紋岩事業を縮小していく中で、事業の柱を環境関連の事業に移していく25年面もあったが、125周年を迎えることができたのは感慨深い」

――蛇紋岩は鉄鋼メーカー向けの副資材でした。

「もともとは耐火物原料や鉄鋼用灼熱炉の炉床材として開発したが、昭和40年代に入り、焼結用副原料としてのニーズが高まり、鉱山開発に乗り出した。昭和42年に東海製鉄（現日本製鉄）に納入したのをきっかけに高炉メーカーで需要が急拡大。最盛期は年間120万トンを出荷した」

――それが2000年代に入り、鉄鋼製造技術の変化などもあって、高炉メーカーの使用量が減ってきたわけですね。

「蛇紋岩事業を最終的に閉じたのは2009年だが、これは時代の流れとしてやむを得なかった。ただ、昭和40年代に開発したが、資源、安定供給を継続中だ。約50年に及んだ蛇紋岩事業は当社の技術・ノウハウの源泉。今でも他の事業に受け継がれている。品質や運搬技術、在庫管理ノウハウなどを蓄積できたのは、高炉メーカーの指導があったからこそ。当時、納入先の担当者からは『蛇紋岩は資材でなく原料ですよ。供給がストップしたら高炉が止まりますよ』と言われた」

――鉄鋼向け副原料はその後、中国からの供給となりました。

「中国・安徽省で採れるドロマイトを蛇紋岩の代替副原料として納入している。現地の鉱山会社にも出資し、安定供給を継続中だ。ただ、鉄鉱石の品質低下が顕在化する中で、副原料を決め打ちするのは得策でない。中国で多様なソースを開拓していくことを常に模索している」

――今はプラスチックの再資源化事業など環境関連事業が柱となっています。

「約45億円の年間売上高のうち環境関連事業が55%を占める。その他はマグネサイトを含む鉄鋼関連の副原料が30%、石灰製品が15%。プラスチックのリサイクル事業は高知、北海道で展開しており、自治体回収の廃プラ年間3万6千トンを再びプラ材料に再資源化している。この事業は技術の高度化が日進月歩。これにどう対応していくかが課題だ」

――150年に向けて、どのような点に力を入れていきますか。

「プラスチックのリサイクル関連事業の高度化に加え、石灰工場の効率化に向けたIT（情報技術）やAI（人工知能）の導入など課題は多い。深刻化する人手不足、安全対策の徹底などを考えると、避けて通れない課題と考えている。こうしたハードルを一つひとつ乗り越え、150周年を迎えたい」

田中石灰工業

125周年で記念祝賀会

田中社長「循環型社会形成に貢献」

挨拶する田中社長

製鉄副原料を高炉メーカーなどに納入している田中石灰工業（本社・高知県南国市、本店営業部・高知市五台山、社長・田中克也氏）は22日、創業125周年の記念祝賀会を高知市内のホテル日航高知旭ロイヤルで開催。尾崎正直高知県知事、石田祝稔衆議院議員や、日本製鉄、JFEスチール、神戸製鋼所の関係者など200人が出席して盛大に行われた。

挨拶に立った田中社長は、同社が1894年（明治27年）11月28日に、石灰石採掘および石灰製造会社として創業。1954年には製鉄副原料の蛇紋岩の採掘事業を開始。2009年に鉄鋼メーカーの原料政策変更による採掘終了まで約50年間・3600万トンを納入してきたことを紹介しながら、「現在は鉄鋼メーカーの原料事情に合致した鉱石を中国で採掘・輸入する事業を進めている。石灰製造業からスタートし、鉱山業、環境関連事業、リサイクル事業を展開するなど、中心事業の軸足の置き場を、経済環境の変化に適応して変化させられる点が当社のDNA。今後も社是の『資源創出と資源の循環』『地域社会への貢献』を軸に、地元に根を下ろしながら循環型社会形成に貢献していく」と強調した。

続いて尾崎高知県知事、石田衆院議員などが祝辞を述べ、125周年を祝った。また創業地の高知県南国市に寄付金を贈呈した。

おかげさまで創業125周年

鉄鋼用マグネシア原料供給専門会社として半世紀以上の実績

マグネシアを含有し、高知県に多く賦存する蛇紋岩を採掘し、製鉄原料として納入することおよそ50年、総量3600万トンを超え、我が国製鉄業へ大きく貢献して参りました。
近年は中国へ進出し、安徽省・遼東省のマグネシア含有鉱物の開発と供給へと広く展開しております。
半世紀以上の実績を礎に、製鉄用耐材等にマグネシア関連産業におけるトップ企業を目指して、次代へと邁進して参ります。

代表取締役社長　田中克也

田中石灰工業株式会社